

6 . B T C からのお知らせ

日高育成総合施設軽種馬育成調教場の運営・管理

平成 24 年を迎えて

昨年の東日本大震災によって亡くなられた被災地の皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災者の方々にお見舞い申し上げます。馬関係者の方にも生活のスタイルの変更を余儀なくされ、昨年とは全く異なる新年を迎えられた方々も少なくないと聞き及んでおります。昨年と何も変わらずに迎えられる新年が、とてもありがたいものだと感じる平成 24 年の幕開けでした。

さて、平成 23 年の日高育成総合施設軽種馬育成調教場（BTC 調教場）利用馬の競走成績について報告します。中央競馬における 2 歳馬の成績は、新馬勝ち 37 勝を含め 113 勝（平成 22 年は 115 勝）でした。また、古馬を含めた中央競馬全体の成績では、昨年は 746 勝（平成 22 年は 735 勝）でした。一方、公営競馬における 2 歳馬の成績は 88 勝（平成 22 年は 112 勝）で、前年と比較すると落ち込んだ成績となっていますが、こちらについても古馬も含めた成績では 2,583 勝（平成 22 年は 2,550 勝）となり、全体的にはまずまずの成績となっております。

次に、調教場の利用延頭数ですが、平成 23 年は 180,083 頭（一日の平均利用頭数は 579 頭、対前年比：100.7%）でしたが、一昨年に引き続き平成 21 年の 180,886 頭をやや下回る結果となりました。それでも昨年 5 月 3 日の利用頭数 787 頭は、一日あたりの利用頭数としては BTC 調教場開場以来の最高記録となっており、ここ数年毎年記録を更新しております。

平成 23 年の利用状況を詳しく見てみると、利用頭数が例年に比べ大きく減少した月は 7 月並びに 9・10 月で、逆に大きく増加した月は 1 月から 3 月までと 8 月でした。3 月については、ここ数年増加傾向にあり、強い調教を始めるこの時期に自場の屋外の馬場が雪に覆われているために、BTC の屋内調教場を利用しているのかもしれませんが。また、夏から秋にかけての変化はセリの開催が前年に比べて 1～2 週遅くなったための変化と思われる。年齢別でみると 1 歳の利用頭数が減少しており、これについてもセリの日程が影響していると考えられますが、サラブレッドの生産頭数の減少や世界規模の不況の影響も危惧されるところです。

平成 23 年に当財団で実施した主な作業

屋内直線馬場のキャンターコースへ新材ウッドチップの補充を行いました。

1,600m トラック砂馬場のコース外側にクッション砂の補充を行いました。

屋内坂路馬場のスタート旋回場及び帰り馬道に新材ウッドチップの補充を行いました。

800m トラック砂馬場の南コーナー部内側に、馬場の排水を良好にするため U 字側溝排水施設を増設しました。

利用馬の安全と開場時間の確保のため、馬場保全管理作業を休場日に実施しました。

上記の作業以外にも各砂馬場の砂厚調整や風倒木の撤去、場内の破損箇所の修繕および除雪作業などを必要に応じて行い、施設を安全にご利用いただけるようメンテナンスに努めております。今後とも皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2011年度利用状況

月別1日当たり平均調教頭数及び最高頭数

(頭)

